

Lucie Rie: Elegant Vessels Fusing East and West

ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—

Lucie

Rie

2026. 7. 4 Sat. — 9. 13 Sun.

開館時間 | 10:00–18:00 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日 *ただし7月20日(月)は開館、7月21日(火)は休館

Hours | 10AM–6PM (Last admission at 5:30PM)

Closed | Mondays (except July 20), July 21



主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、東京新聞

企画協力 | 国立工芸館 特別協力 | 井内コレクション、京都国立近代美術館

協賛 | DNP 大日本印刷

年間協賛 | 戸田建設株式会社、ブルームバード **Bloomberg** Van Cleef & Arpels

ルーシー・リー 《熔岩釉鉢》1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 河野幸人



日時指定
予約制
Timed Entry
System



東京都
庭園美術館
TOKYO METROPOLITAN
TEIEN ART MUSEUM



Lucie Rie: Elegant Vessels Fusing East and West

ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—

Lucie

Rie

2026. 7. 4 Sat. — 9. 13 Sun.

開館時間 | 10:00–18:00 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日 *ただし7月20日(月)は開館、7月21日(火)は休館

Hours | 10AM–6PM (Last admission at 5:30PM)

Closed | Mondays (except July 20), July 21



1: 鉢の高台を削るルーシー・リー (1955年頃)

Photograph by Kemsley Picture Service. © Estate of Lucie Rie. From the collections of the Crafts Study Centre, University for the Creative Arts, UK, R1E/20/1/2.

2: 《ボタン》(一部) 1940–50年代 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム蔵

3: 《ブロンズ釉花器》1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 品野 壘

4: 《コーヒー・セット》1960年頃 国立工芸館蔵 撮影: エス・アンド・ティ フォト

5: 《白釉ピンク線文鉢》1984年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 野村知也

6: 《マンガン釉線文鉢》1970年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 品野 壘

7: 《青釉鉢》1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 品野 壘

8: 《鉢》1926年頃 個人蔵 撮影: 野村知也



主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、東京新聞

企画協力 | 国立工芸館 特別協力 | 井内コレクション、京都国立近代美術館

協賛 | DNP 大日本印刷

年間協賛 | 戸田建設株式会社、ブルームバーグ Bloomberg Van Cleef & Arpels

ルーシー・リー 《熔岩釉鉢》1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影: 河野幸人



Lucie Rie: Elegant Vessels Fusing East and West

ルーシー・リー展 —東西をつなぐ優美のうつわ—



3

20世紀を代表するイギリスの陶芸家、ルーシー・リー（1902–1995）。オーストリアのウィーンに生まれたリーは、ウィーン工芸美術学校で轆轤ろくろを用いた制作に魅了され、陶芸の道へと進みました。作家としての地位を確立しながらも、1938年に戦争で亡命を余儀なくされると、作陶の場をイギリスのロンドンへ移します。ろくろから生み出される優雅なフォルム、象嵌や搔き落とし技法による独創的な文様、そして釉薬によって生み出される豊かな色彩など、彼女の作品がもつ繊細さと凛とした佇まいは、多くの人々を魅了し続けています。

国内では約10年ぶりの回顧展となる本展では、ウィーンで出会ったヨーゼフ・ホフマンや、ロンドン時代に知り合ったバーナード・リーチ、ハンス・コパーなど、リーと交流のあった作家たちの作品をあわせて展示し、日本を中心とした東洋のやきものとの関係性も見直します。制作初期から円熟期まで、リーが出会った場所、人、もの、時代背景を交えながら作品を紐解くことで、その造形の源泉や作品に表された信念に迫ります。

観覧料

一般 1,400 (1,120) 円
大学生（専修・各種専門学校含む） 1,120 (890) 円
高校生・65歳以上 700 (560) 円

*（ ）内は20名以上の団体料金
*中学生以下は無料（予約不要）／身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料（ミライロID含む・予約不要）／教育活動として教師が引率する都内の小・中・高校生および教師は無料（事前申請が必要）／第3水曜日（シルバーデー）は65歳以上の方は無料（予約不要）
*本展は**日時指定予約制**です。ご来館前に当館ウェブサイトよりチケットをご購入ください。
*7月29日（水）・8月5日（水）はフラットデー開催日のため、通常よりも入場者数を制限します。

Admission

Adults ¥1,400 (¥1,120)
College and vocational students ¥1,120 (¥890)
High school students and Seniors (65 and over) ¥700 (¥560)

Figures in parentheses are group admission fees (for groups of 20 or more)

Admission to the museum is by timed entry system.

Tickets may be purchased in advance from the website.

最新情報は、当館ウェブサイトをご確認ください。
Please see our website for more details.



5



東京都
庭園美術館
TOKYO METROPOLITAN
TEIEN ART MUSEUM



4

フラットデー G(ALL)ERY Day

障害がある方も、赤ちゃん連れの方も、だれもが気兼ねなく来館できるプログラム

フラットデー開催日はゆとりある環境づくりのため、通常よりも入場者数を制限します。また、会話を伴うツアーを実施するなど、通常と異なる点があります。あらかじめご了承ください。

ゆったり鑑賞日

日時 | 2026年7月29日（水）10:00–18:00（最終入館 17:30）
*本館内でベビーカーは使用できません。

ベビーカー

日時 | 2026年8月5日（水）10:00–15:00（本館内でベビーカーを利用できる時間）

〒108-0071 東京都港区白金台 5-21-9 5-21-9, Shirokanedai, Minato-ku, Tokyo
TEL | 050-5541-8600（ハローダイヤル）
+81(0)50 5541 8600（Hello Dial operator service）
URL | www.teien-art-museum.ne.jp SNS | @teienartmuseum

目黒駅 JR山手線 東口／東急目黒線 正面口より徒歩7分
白金台駅 都営三田線／東京メトロ南北線 1番出口より徒歩6分
（エレベーターご利用の場合は2番出口より徒歩8分）



7

講演会

「東西をつなぐルーシー・リー」

本展の監修者が、ルーシー・リーの生涯と作品、そして東洋のやきものとの結びつきについて語ります。
講師 | 岩井美恵子（国立工芸館工芸課長・本展監修者）
日時 | 2026年7月18日（土）14時–（約60分） 場所 | 東京都庭園美術館 新館ギャラリー2
参加費 | 無料（当日有効の展覧会チケットが必要） 定員 | 80名（事前申込制・応募者多数の場合抽選）
サポート | 手話通訳・文字表示支援あり

「担当学芸員によるミニレクチャー」

本展担当学芸員が、ルーシー・リーの作品に初めて出会う方、展覧会の構成や見どころを短時間で知りたい方へむけて、展覧会や作品を楽しむポイントをご紹介します。
講師 | 勝田琴絵（東京都庭園美術館学芸員）
日時 | 2026年7月31日（金）16時–、8月8日（土）14時–（各回とも約30分） 場所 | 東京都庭園美術館 新館ギャラリー2
参加費 | 無料（当日有効の展覧会チケットが必要） 定員 | 80名（事前申込制・応募者多数の場合抽選）

ワークショップ

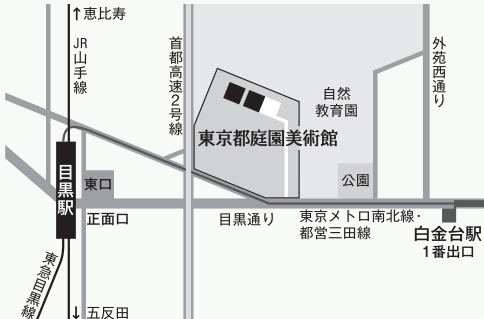
「陶製のボタンをつくろう」

ルーシー・リーの陶製ボタンをヒントに、オリジナルのボタンを作ってみましょう。
講師 | 岡崎裕子（陶芸家）
日時 | 2026年8月22日（土）11時30分–、14時30分–（各回とも約90分） 場所 | 東京都庭園美術館 新館ギャラリー2
参加費 | 無料（当日有効の展覧会チケットが必要） 対象 | 小学校高学年以上
定員 | 各回20名程度（事前申込制・応募者多数の場合抽選）
*作ったボタンは後日送付します。

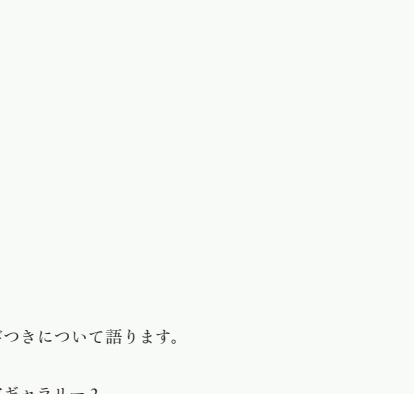
アクセスプログラム

「さわ会ーさわっておしゃべり鑑賞会」

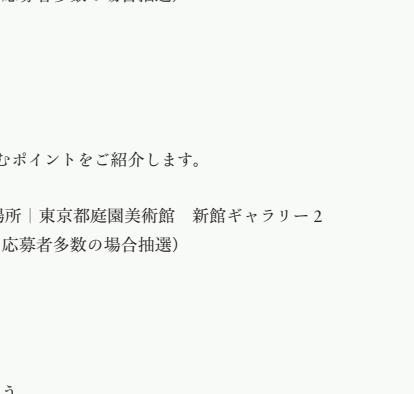
建物や作品に触れ、対話を通じて感じたことを共有する鑑賞会です。
茶室「光華」でルーシー・リーの茶碗を手に取りながら、心に浮かんだことをおしゃべりしてみませんか。
企画 | 半田こづえ（明治学院大学 非常勤講師）
日時 | 2026年7月12日（日） 午前の会：10時30分–12時30分 午後の会：14時30分–16時30分
場所 | 東京都庭園美術館 茶室「光華」
参加費 | 無料（当日有効の展覧会チケットが必要） 対象 | 中学生以上
定員 | 各回6名程度（事前申込制・応募者多数の場合抽選）



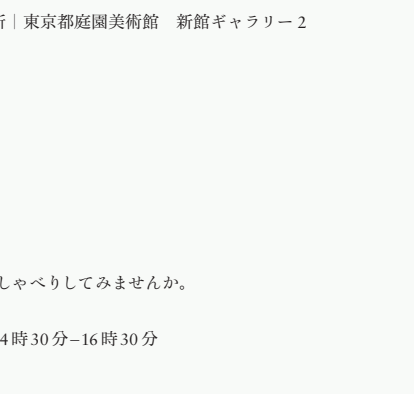
6



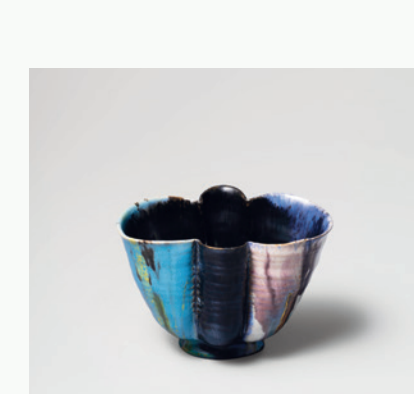
8



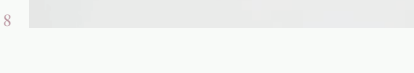
6



6



6



6